

## Ⅱ 人権問題学習の教材と学習の進め方

### 1 「わたし」と「あなた」、そして「みんな」

本手引で多く取り入れられているワークショップは、参加者が主体となり、自らの知識や経験、感性をもとに、考え方や生き方、あるいは社会のあり方を見つめ、共に深めていく営みのことです。「わたし」と「あなた」、そして「みんな」で“学ぶこと”を通して人権文化を創造していきましょう。

#### (1) 心地よいコミュニケーションづくり

##### ア 自尊感情を高める

人権を考えるとき、「今のあるがままの自分が好きだ」と思える感情（自尊感情；セルフエスティーム）がキーワードとなっています。今の自分を受け入れ、「自分らしさ」に自信をもち、自分をかけがえのない存在として認識できるようになることが、人権が尊重される社会づくりのための基礎となります。

自尊感情は、自分一人で意識して高められるものではありません。周囲の人たちが、無条件であるがままの自分を認めてくれるという実感が必要です。そのためには、互いを受け入れる、「安心」の環境づくりが不可欠となります。自分を無条件で認めてくれる仲間とのかかわりの中で、自分自身を見つめ、今の自分を価値ある存在として丸ごと認めていくこと、つまり、自分を大切に思える感情をもつことは、他者に対しても共感的に目を向けていくことに必ずつながるものです。

##### イ コミュニケーション能力

コミュニケーション能力は大きく分けると、「話す力」と「聞く力」に分けられます。

「話す力」は、自分の気持ちや考えをはっきりと、相手への配慮を忘れずに伝える力です。自分の気持ちを伝えることは、相手に人権に関心を持ってもらうことに繋がります。また、「聞く力」は、相手の権利に関心をもつ出発点です。

コミュニケーション能力は、違う文化や立場をもった人々と互いの人権を尊重して接する上で大切な基盤となります。